



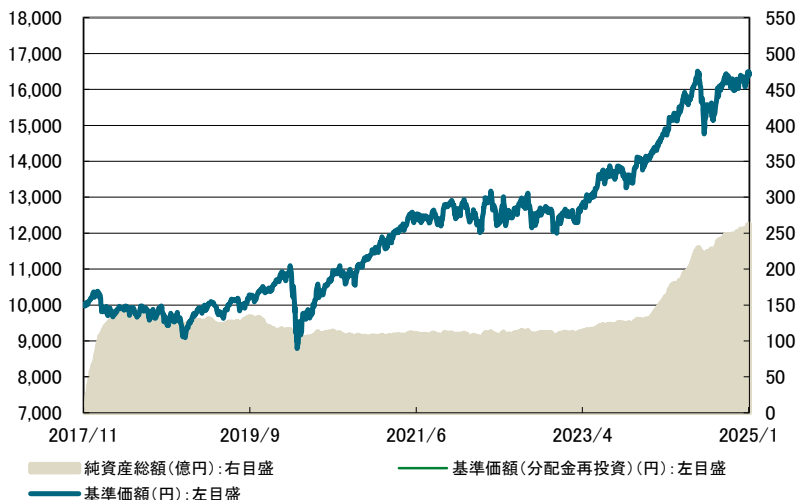
# グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

## 基準価額の推移



- ※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

## 基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	16,448 円	+ 118 円
純資産総額	262.59 億円	+ 7.85 億円

## 期間別騰落率

	騰落率
1カ月	0.72%
3カ月	0.09%
6カ月	5.19%
1年	14.20%
3年	32.80%
設定来	64.48%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

## 分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 0 円

決算期	2022年8月	2023年8月	2024年8月
分配金	0 円	0 円	0 円

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

### <本資料のお取扱いにおけるご留意点>

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。



## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日



### マザーファンドの月間騰落率

マザーファンド	騰落率
国内株式インデックス マザーファンド	0.14%
外国株式インデックス マザーファンド	0.22%
新興国株式インデックス マザーファンド	-1.21%
国内債券インデックス マザーファンド	-0.74%
外国債券インデックス マザーファンド	-2.09%
新興国債券インデックス マザーファンド	-0.63%
J-REITインデックス マザーファンド	3.53%
グローバルREITインデックス マザーファンド	-0.87%
ゴールドマザーファンド(為替ヘッジあり)	6.39%

### ファンドの運用状況

当月は、金がプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。

株式は、日本は概ね横ばい、先進国はプラスに寄与、新興国はマイナスに影響しました。日本は、日銀の利上げやトランプ米大統領の関税政策などに左右され、方向感のない展開となりました。先進国は、米インフレ再燃への過度な警戒感が和らいだことを受けて上昇しました。新興国は、現地通貨ベースで上昇しましたが、投資対象通貨が円に対して下落しました。債券は、各国がマイナスに影響しました。日本は、日銀が追加利上げに踏み切ったことなどから、利回りが上昇(価格は下落)しました。先進国および新興国は、利回りが低下したものの、世界的な円高により投資通貨が軟調な展開となったことから、下落しました。REITは、割安感に着目した動きなどから日本はプラスに寄与しましたが、先進国がマイナスに影響しました。金は、トランプ政権の関税政策や貿易摩擦の不透明感から買われ、プラスに寄与しました。

今後の運営方針としては、金の比率を多めに設定したポートフォリオを継続します。地域別のGDP(国内総生産)総額の比率や市場環境の変化等に応じて決定した基本組入比率に則り、世界の株式、債券、REIT、金への分散投資を行い、中長期的な投資信託財産の成長を目指して運用を行っていきます。

### マザーファンドの状況

マザーファンド	資産構成比	基本組入比率	差	基準価額騰落貢献額
国内株式インデックス マザーファンド	3.54%	3.50%	0.04%	1 円
外国株式インデックス マザーファンド	20.56%	19.25%	1.31%	7 円
新興国株式インデックス マザーファンド	12.17%	12.25%	-0.08%	- 25 円
国内債券インデックス マザーファンド	2.33%	3.50%	-1.17%	- 3 円
外国債券インデックス マザーファンド	18.48%	19.25%	-0.77%	- 65 円
新興国債券インデックス マザーファンド	11.85%	12.25%	-0.40%	- 12 円
J-REITインデックス マザーファンド	4.76%	5.00%	-0.24%	27 円
グローバルREITインデックス マザーファンド	4.92%	5.00%	-0.08%	- 7 円
ゴールドマザーファンド(為替ヘッジあり)	20.59%	20.00%	0.59%	203 円
その他	0.79%	-	-	- 8 円
合計	100.00%	100.00%	-	118 円

※ 対純資産総額比です。

※ 各マザーファンドのベンチマークについては、13ページをご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



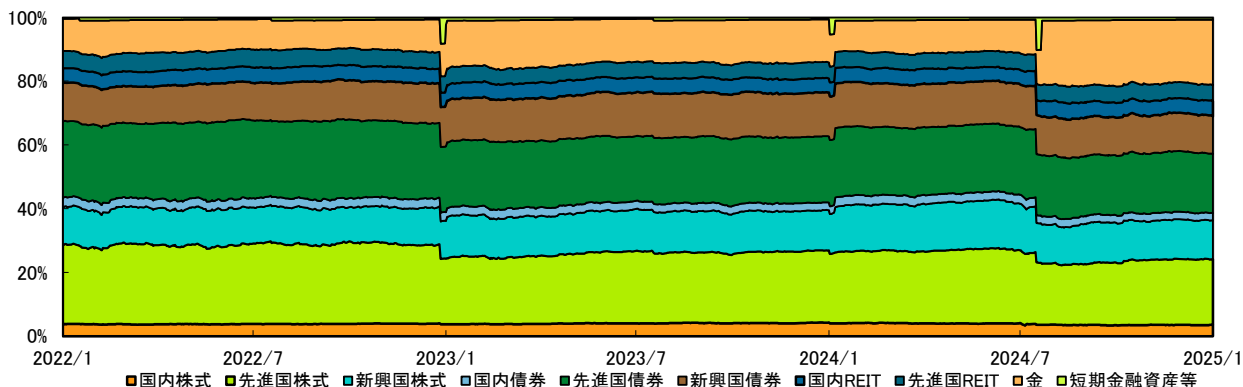
# グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

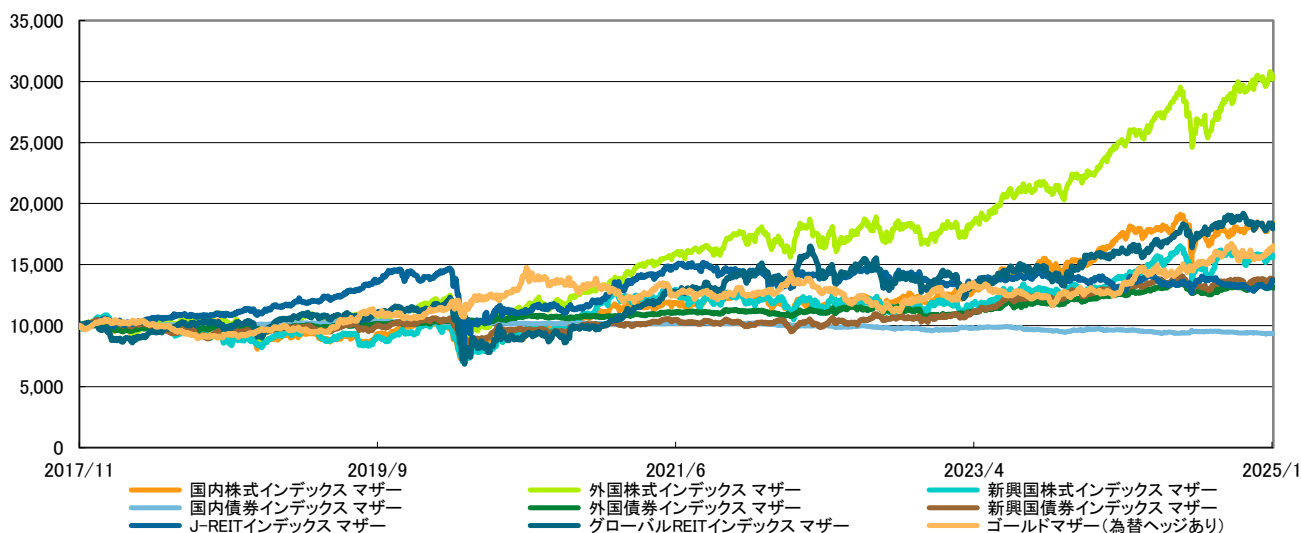
作成基準日 : 2025年1月31日

## 資産別組入比率の推移



※ 上記グラフは過去3年間の数値を使用して作成しています。

## マザーファンドの基準価額の推移



※ 当ファンドへの組入開始時を10,000として指数化し、作成基準日までを表示しています。

## 組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	米国	49.41%
2	日本	11.42%
3	中国	4.54%
4	インド	3.03%
5	台湾	2.39%
6	ケイマン島	2.02%
7	フランス	1.99%
8	英国	1.92%
9	メキシコ	1.56%
10	ドイツ	1.53%

※ 対純資産総額比です。

## 組入上位10通貨

	通貨	比率
1	米国ドル	49.72%
2	日本円	11.42%
3	ユーロ	7.38%
4	オフショア人民元	3.72%
5	インド・ルピー	3.03%
6	香港ドル	2.79%
7	台湾ドル	2.43%
8	英国ポンド	1.90%
9	メキシコ・ペソ	1.56%
10	マレーシア・リンギット	1.46%

※ 対純資産総額比です。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

### 国内株式インデックス マザーファンドの資産の状況

#### 資産内容

株式	99.35%
株式先物取引	0.57%
短期金融資産等	0.08%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

#### 組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	電気機器	17.81%	17.80%
2	銀行業	9.09%	9.09%
3	輸送用機器	7.57%	7.57%
4	情報・通信業	7.56%	7.61%
5	卸売業	6.49%	6.49%
6	機械	5.62%	5.61%
7	サービス業	5.19%	5.18%
8	化学	4.95%	4.95%
9	小売業	4.58%	4.58%
10	医薬品	4.25%	4.25%

※ 対現物株式構成比です。

#### 組入上位10銘柄

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.95%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.12%
3	ソニーグループ	電気機器	2.96%
4	日立製作所	電気機器	2.56%
5	リクルートホールディングス	サービス業	2.19%
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.98%
7	キーエンス	電気機器	1.68%
8	任天堂	その他製品	1.61%
9	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.43%
10	東京エレクトロン	電気機器	1.38%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,681

#### 市場動向

国内株式市場は、月間を通して日銀の金融政策決定会合や、トランプ氏の米大統領就任などが意識され、前月末比ではほぼ横ばいとなりました。月前半は、高値圏で推移していたため利益確定の売りが出たほか、米半導体株安を受けて売りが先行しました。その後も、ファーストリテイリングの中国事業の不振や、米国の対中輸出規制の強化に関する報道などが株式市場の下押し圧力につながりました。月後半は、米国株が上昇したことに加えて、米国でAI(人工知能)への巨額投資計画が発表されたことで国内半導体株にも買いが波及し、堅調に推移しました。また、トランプ米大統領が対中関税の即時発動を見送ったことも投資家心理の改善に繋がりました。日銀の追加利上げ決定は市場の予想通りであったため影響は限定的でしたが、業種別では、金利の上昇による収益の改善が期待される銀行株などの上昇が目立ちました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

### 外国株式インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 株式には投資信託等を含みます。

#### 資産内容

株式	98.68%
株式先物取引	1.32%
短期金融資産等	-0.00%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

#### 組入上位10カ国・地域

	国・地域	ファンド	ベンチマーク
1	米国	78.14%	77.66%
2	英国	3.66%	3.69%
3	カナダ	3.16%	3.14%
4	フランス	2.78%	2.81%
5	スイス	2.41%	2.43%
6	ドイツ	2.36%	2.38%
7	オーストラリア	1.80%	1.82%
8	オランダ	1.10%	1.14%
9	スウェーデン	0.79%	0.92%
10	イタリア	0.71%	0.71%

※ 対現物株式構成比です。

#### 組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	ソフトウェア・サービス	10.13%	10.17%
2	半導体・半導体製造装置	8.61%	8.52%
3	金融サービス	7.58%	7.55%
4	メディア・娯楽	7.36%	7.45%
5	資本財	7.03%	7.06%
6	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	6.82%	6.82%
7	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	6.81%	6.83%
8	銀行	5.94%	5.97%
9	一般消費財・サービス流通・小売り	5.36%	5.41%
10	ヘルスケア機器・サービス	3.96%	3.96%

※ 対現物株式構成比です。

※ 業種はGICS分類(産業グループ)によるものです。GICSに関する知的所有権等はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。

#### 組入上位10銘柄

	銘柄	国・地域	比率
1	APPLE INC	米国	5.19%
2	NVIDIA CORP	米国	4.39%
3	MICROSOFT CORP	米国	4.21%
4	AMAZON.COM	米国	3.18%
5	META PLATFORMS INC-CLASS A	米国	2.15%
6	ALPHABET INC-CL A	米国	1.69%
7	TESLA INC	米国	1.65%
8	ALPHABET INC-CL C	米国	1.46%
9	BROADCOM INC	米国	1.37%
10	JPMORGAN CHASE & CO	米国	1.10%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,207

#### 市場動向

米国株式市場は上昇しました。月前半は、米長期金利の上昇や米大統領就任を控えて様子見の展開となりました。月後半は堅調に推移しました。米物価指標が市場予想を下回ったことを受けて米インフレ再燃への過度な警戒感が和らいだほか、主要金融株の好決算などを背景に上昇しました。20日にトランプ米大統領が関税引き上げを見送ったことも相場の安心材料になり、S&P500指数は一時過去最高値を更新しました。

欧州株式市場は上昇しました。月前半はもみ合う展開でした。中国政府のさらなる景気刺激策が期待された一方、米長期金利の上昇が重石となりました。月後半は、米国の利下げ期待の高まりが意識されたほか、高級品株の決算が好感されたことを背景に上昇しました。加えてユーロ圏の長期金利が低下傾向であることを受けて上昇幅を拡大しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

### 新興国株式インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 株式には投資信託等を含みません。

#### 資産内容

株式	96.07%
株式先物取引	3.92%
短期金融資産等	0.01%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

#### 組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	台湾	18.91%
2	インド	17.51%
3	ケイマン島	15.97%
4	中国	10.06%
5	韓国	9.15%
6	サウジアラビア	4.02%
7	ブラジル	3.81%
8	南アフリカ	2.64%
9	メキシコ	1.75%
10	マレーシア	1.39%

※ 対純資産総額比です。

#### 組入上位10通貨

	通貨	比率
1	香港ドル	20.97%
2	台湾ドル	19.22%
3	インド・ルピー	17.51%
4	韓国ウォン	9.15%
5	サウジアラビア・リヤル	4.02%
6	ブラジル・レアル	3.81%
7	オフショア人民元	3.59%
8	南アフリカ・ランド	2.92%
9	米国ドル	2.71%
10	メキシコ・ペソ	1.75%

※ 対純資産総額比です。  
 ※ マザーファンドを通じ、新興国の企業が米ドル建て等で発行する証券(預託証券(DR))にも投資します。したがって、通貨構成比は国・地域別構成比と異なることがあります。

#### 組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	銀行	18.00%	18.00%
2	半導体・半導体製造装置	14.39%	14.26%
3	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	7.76%	7.74%
4	メディア・娯楽	6.45%	6.49%
5	素材	5.84%	5.84%
6	一般消費財・サービス流通・小売り	5.46%	5.41%
7	資本財	4.68%	4.68%
8	エネルギー	4.53%	4.58%
9	自動車・自動車部品	3.55%	3.62%
10	保険	3.00%	2.97%

※ 対現物株式構成比です。

#### 組入上位10銘柄

	銘柄	国・地域	比率
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC	台湾	10.53%
2	TENCENT HOLDINGS LTD	ケイマン島	4.12%
3	ALIBABA GROUP HOLDING LTD	ケイマン島	2.27%
4	SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD	韓国	2.18%
5	HDFC BANK LTD	インド	1.37%
6	MEITUAN-CLASS B	ケイマン島	1.15%
7	RELIANCE INDUSTRIES LTD	インド	1.08%
8	SK HYNIX INC	韓国	1.03%
9	PDD HOLDINGS INC-ADR	ケイマン島	0.99%
10	CHINA CONSTRUCTION BANK-H	中国	0.96%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,120

#### 市場動向

新興国株式市場はまちまちの展開となりましたが、全体では上昇しました。香港株式市場の中国株は、月前半は、財新製造業PMI(購買担当者指数)が市場予想を下回ったことなどから下落しました。月後半は、公約に掲げてきた対中関税の就任初日の発動を見送るなどトランプ米大統領の対中姿勢が想定ほど強硬ではなかったことや、中国の生成AI(人工知能)サービス企業DeepSeekが低コストかつ高性能な推論モデルを発表したことが好感され、上昇しました。韓国株式市場は、米大手ハイテク企業による設備投資計画の恩恵を受けることが期待されて上昇した半導体大手SKハイニックスにけん引され、堅調に推移しました。インド株式市場は、月前半は、失望的な一部の銀行決算を受けて投資家心理が悪化したことや、市場予想を上回る米雇用統計を受けてFRB(米連邦準備理事会)による利下げ期待が後退したことなどを背景に下落しました。月後半は、インド準備銀行による銀行間市場向けの大規模な資金供給を受けて金融緩和期待が高まったことなどから下げ幅を縮小しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。





## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

### 国内債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

#### 資産内容

債券	99.96%
債券先物取引	0.00%
短期金融資産等	0.04%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

#### 特性値

	ファンド	ベンチマーク
残存年数	10.50 年	10.50 年
修正デュレーション	8.60	8.57
最終利回り	1.22 %	1.22 %
銘柄数	1,080	-

※ 修正デュレーションとは債券価格の金利変動に対する感応度(変動率)を表しており、この値が大きいほど金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

#### 種類別構成比

種類	ファンド	ベンチマーク
国債	85.10%	84.92%
地方債	5.81%	5.87%
政府保証債	1.24%	1.25%
金融債	0.30%	0.30%
事業債	6.05%	6.09%
円建外債	0.30%	0.33%
MBS	1.18%	1.18%
ABS	0.01%	0.06%

※ 対現物債券構成比です。

#### 残存期間別構成比

残存年数	ファンド	ベンチマーク
1年未満	0.00%	0.00%
1年以上3年未満	20.63%	20.99%
3年以上7年未満	28.78%	28.45%
7年以上10年未満	17.20%	16.87%
10年以上	33.39%	33.69%

※ 対現物債券構成比です。

#### 市場動向

国内債券市場では、10年国債利回りが上昇(価格は下落)しました。月前半は、日銀が1月から国債買い入れを減らすことで需給の緩みが警戒されたほか、好調な米経済を背景に米長期金利が上昇したことが債券の売りにつながりました。また、日銀正・副総裁が講演等で1月の金融政策決定会合での利上げの可能性を示唆したことも金利の上昇要因となり、一時1.25%を付けました。その後は1.2%近辺でもみ合う展開となりました。植田総裁が金融政策決定会合後の会見で利上げを続ける姿勢を示した一方、米長期金利がトランプ政権の関税政策に対する過度な警戒感が和らぐ中で低下したことが影響しました。中国のAI(人工知能)を巡る思惑から日米株安となった場面では、リスク回避のために相対的に安全な資産とされる債券が買われました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

### 外国債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

#### 資産内容

債券	98.44%
債券先物取引	0.99%
短期金融資産等	0.57%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

#### 特性値

	ファンド	ベンチマーク
直接利回り	2.67 %	-
最終利回り	3.56 %	3.59 %
残存年数	8.92 年	8.93 年
修正デュレーション	6.30	6.35
銘柄数	912	-

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

#### 組入上位10カ国・地域

	国・地域	ファンド	ベンチマーク
1	米国	47.52%	47.34%
2	中国	11.34%	11.51%
3	フランス	7.22%	7.22%
4	イタリア	6.80%	6.71%
5	ドイツ	5.66%	5.71%
6	英国	5.13%	5.09%
7	スペイン	4.34%	4.39%
8	カナダ	1.95%	1.99%
9	ベルギー	1.54%	1.56%
10	オランダ	1.28%	1.23%

※ 対現物債券構成比です。

#### 組入上位10通貨

	通貨	ファンド	ベンチマーク
1	米国ドル	47.52%	47.34%
2	ユーロ	29.46%	29.46%
3	オフショア人民元	11.34%	11.51%
4	英国ポンド	5.13%	5.09%
5	カナダ・ドル	1.95%	1.99%
6	オーストラリア・ドル	1.22%	1.21%
7	メキシコ・ペソ	0.77%	0.78%
8	ポーランド・ズロチ	0.56%	0.56%
9	マレーシア・リンギット	0.51%	0.51%
10	シンガポール・ドル	0.38%	0.38%

※ 対現物債券構成比です。

※ ベンチマークは中国・元の構成比になります。

#### 市場動向

米国10年国債利回りは横ばいでした。月前半は、米経済指標が相次いで景気の底堅さを示したことによる米利下げ観測の後退や、米10年国債入札で需要が強まらなかったことが債券の売りにつながりました。月後半は、FRB(米連邦準備理事会)理事が利下げについて言及したことや、米ハイテク株が下落した場面で債券が買われ、利回りは低下(価格は上昇)しました。ドイツ10年国債利回りは上昇しました。月前半に、米英長期金利の上昇に加えて12月の独消費者物価指数の上昇率が市場予想を上回ったことなどが国債の売りを促しました。月後半は2.5%台を中心に推移しました。米英の長期金利が低下したことが独債券市場にも波及した一方、米独株の上昇を受けて投資家心理が改善したことから債券への売りが強まりました。米ドル/円相場は円高・米ドル安が進行し、154円台となりました。月前半は、米長期金利の上昇を受けて158円近辺で推移しました。月中旬に円高・米ドル安が進行しました。米経済指標が経済の減速を示したことや、FRB理事のハト派的な発言を受けて米長期金利が低下し、日米の金利差縮小が意識されました。日銀が追加利上げに踏み切ったことや、低コストで高性能の中国製AI(人工知能)が話題となったことも円相場の支えとなりました。ユーロ/円相場は、円高・ユーロ安が進行し、160円となりました。月前半は、日銀が1月の金融政策決定会合で追加利上げを行うとの思惑などから円高・ユーロ安が進行しました。その後は、トランプ米大統領が就任直後に関税の引き上げを行わなかった安心感から欧州株が上昇し、ユーロが買われました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。





## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

### 新興国債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

#### 資産内容

債券	98.19%
債券先物取引	0.00%
短期金融資産等	1.81%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

#### 特性値

直接利回り	5.65%
最終利回り	6.76%
残存年数	7.75年
修正デュレーション	5.22
銘柄数	323

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

#### 組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	メキシコ	9.93%
2	マレーシア	9.84%
3	中国	9.68%
4	インドネシア	9.59%
5	タイ	9.39%
6	南アフリカ	8.39%
7	ポーランド	7.08%
8	インド	6.72%
9	ブラジル	6.35%
10	チェコ	5.41%

※ 対純資産総額比です。

#### 組入上位10通貨

	通貨	比率
1	メキシコ・ペソ	9.93%
2	マレーシア・リンギット	9.84%
3	オフショア人民元	9.68%
4	インドネシア・ルピア	9.59%
5	タイ・バーツ	9.39%
6	南アフリカ・ランド	8.39%
7	ポーランド・ズロチ	7.08%
8	インド・ルピー	6.72%
9	ブラジル・リアル	6.35%
10	チェコ・コルナ	5.41%

※ 対純資産総額比です。

#### 市場動向

新興国通貨は、大半が対円で下落しました。日銀の追加利上げが円買いの要因になりました。アルゼンチン・ペソやインド・ルピーの下げ幅が大きくなった一方、ブラジル・リアルは上昇しました。

対米ドルでは新興国通貨は、大半が上昇しました。月後半にFRB(米連邦準備理事会)理事のハト派的発言や、米ハイテク株安を受けて米長期金利が低下したことが影響しました。

新興国債券利回りは、まちまちの動きとなりました。米長期金利が横ばい圏で推移するなか、トランプ氏の米大統領就任を受けて関税の引き上げが警戒されたメキシコの債券利回りは大きく低下(価格は上昇)しました。中央銀行が利上げを決定したブラジルの債券利回りは上昇しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

### J-REITインデックス マザーファンドの資産の状況

#### 資産内容

J-REIT	96.41%
J-REIT先物取引	3.57%
短期金融資産等	0.02%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

#### 特性値

予想配当利回り	4.88%
銘柄数	57

※ 予想配当利回り(税引前)は、各種情報を基に組入銘柄の予想配当利回りを加重平均して算出した値(対純資産総額比)です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

#### 用途別組入状況

	用途	比率
1	商業・物流等	45.18%
2	オフィス	42.41%
3	住宅	12.41%

※ 対現物REIT構成比です。

#### 組入上位10銘柄

	銘柄	用途	比率
1	日本ビルファンド投資法人	オフィス	7.03%
2	ジャパンリアルエステイト投資法人	オフィス	5.48%
3	日本都市ファンド投資法人	商業・物流等	4.78%
4	野村不動産マスターファンド投資法人	オフィス	4.67%
5	KDX不動産投資法人	オフィス	4.23%
6	GLP投資法人	商業・物流等	4.17%
7	日本プロロジスリート投資法人	商業・物流等	4.03%
8	インヴェンシブル投資法人	商業・物流等	3.65%
9	大和ハウスリート投資法人	商業・物流等	3.56%
10	オリックス不動産投資法人	オフィス	3.35%

※ 対純資産総額比です。

#### 市場動向

J-REIT市場は上昇しました。

月前半は、氷見野日銀副総裁の発言等を受けて月後半の日銀金融政策決定会合での追加利上げ観測が高まり下落しました。月後半は、日銀が追加利上げを決定したものの、事前報道等により利上げは概ね織り込み済みだったことであく抜け感から反発するなか、J-REIT銘柄の割安感に着目したシンガポール系投資ファンドによるTOB(公開買付け)発表も追い風となり、月末の東証REIT指数は前月末比プラスとなりました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

## グローバルREITインデックス マザーファンドの資産の状況

### 資産内容

グローバルREIT	99.75%
短期金融資産等	0.25%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

### 組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	米国	79.75%
2	オーストラリア	7.15%
3	英国	4.08%
4	シンガポール	2.95%
5	フランス	1.78%
6	カナダ	1.21%
7	ベルギー	0.94%
8	香港	0.84%
9	スペイン	0.44%
10	韓国	0.16%

※ 対純資産総額比です。

### 組入上位10通貨

	通貨	比率
1	米国ドル	79.80%
2	オーストラリア・ドル	7.15%
3	英国ポンド	4.08%
4	ユーロ	3.43%
5	シンガポール・ドル	2.85%
6	カナダ・ドル	1.21%
7	香港ドル	0.84%
8	韓国ウォン	0.16%
9	イスラエル・シケル	0.14%
10	ニュージーランド・ドル	0.09%

※ 対純資産総額比です。

### 組入上位10銘柄

	銘柄	国・地域	比率
1	PROLOGIS INC	米国	7.67%
2	EQUINIX INC	米国	6.12%
3	WELLTOWER INC	米国	5.59%
4	SIMON PROPERTY GROUP	米国	3.72%
5	DIGITAL REALTY TRUST INC	米国	3.53%
6	REALTY INCOME CORP	米国	3.26%
7	PUBLIC STORAGE	米国	3.22%
8	GOODMAN GROUP	オーストラリア	2.92%
9	EXTRA SPACE STORAGE INC	米国	2.25%
10	VICI PROPERTIES INC	米国	2.16%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 290

### 市場動向

海外(先進国)のREIT市場は概ね上昇しました。

米国REIT市場は上昇しました。月前半は、米経済指標が相次いで景気の底堅さを示したことや米10年国債入札で需要が強まらなかったことを背景に米長期金利が上昇したことが重石となりました。月後半は、FRB(米連邦準備理事会)高官が利下げについて言及したことや米ハイテク株が下落したことで債券の利回りが低下したことなどが影響し、堅調に推移しました。

欧州REIT市場は上昇しました。月前半は米英の長期金利が上昇したことが重石となり下落しました。月後半は一転して、米英の長期金利が低下したことに加えて、月末にECB(欧州中央銀行)が政策金利の追加の引き下げを決定したことも追い風となり、上昇しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

### ゴールドマザーファンド(為替ヘッジあり)の資産の状況

#### 資産内容

上場投資信託	97.86%
短期金融資産等	2.14%
合計	100.00%

発行体	通貨	比率
ISHARES GOLD TRUST	米国ドル	97.86%
-	-	-
-	-	-
-	-	-
-	-	-
合計	-	97.86%

※ 対純資産総額比です。

#### 市場動向

米ドル建てLBMA金価格は上昇しました。月前半は、米雇用統計が労働市場の堅調さを示したことを受けて、FRB(米連邦準備理事会)の利下げペースが減速するとの観測が広がりましたが、米コアCPI(消費者物価指数)が市場予想を下回ったことで、追加利下げが見送られるとの過度な懸念が後退し、金価格は上昇しました。月後半は、トランプ米大統領による関税引き上げなどの政策がもたらす影響が意識され、金に対する安全資産需要が高まりました。それに伴い、金価格は上昇し、月末には過去最高値を更新しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

### マザーファンドのベンチマーク

※ 各マザーファンドのベンチマークは、以下の通りです。

マザーファンド	ベンチマーク
国内株式インデックス マザーファンド	<p>【TOPIX(東証株価指数)(配当込み)】 TOPIX(東証株価指数)とは、株式会社JPX総研が算出、公表する指数で、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。 TOPIX(東証株価指数)(配当込み)(以下、「配当込みTOPIX」という。)の指数値及び配当込みTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など配当込みTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及び配当込みTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、配当込みTOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。</p>
外国株式インデックス マザーファンド	<p>【MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)】 MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した日本を除く世界の主要国の株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。「円換算ベース」は、米ドルベース指数をもとに、当社が独自に円換算した指数です。 MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.はMSCIコクサイ・インデックスの内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。</p>
新興国株式インデックス マザーファンド	<p>【MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)】 MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した世界の新興国株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。「円換算ベース」は、米ドルベース指数をもとに、当社が独自に円換算した指数です。 MSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.はMSCIエマージング・マーケット・インデックスの内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。</p>
国内債券インデックス マザーファンド	<p>【NOMURA-BPI総合】 NOMURA-BPI総合とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&amp;コンサルティング株式会社が公表する、日本の公募債券流通市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された債券ポートフォリオのパフォーマンスを基に計算されます。同指数の知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&amp;コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&amp;コンサルティング株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、同指数を用いて行われる当社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。</p>
外国債券インデックス マザーファンド	<p>【FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)】 FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性及び完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏又は遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。</p>
新興国債券インデックス マザーファンド	<p>【JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円換算ベース)】 JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドとは、新興国の現地通貨建債券市場の動向を測るためにJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが開発した、時価総額ベースの債券インデックスです。「円換算ベース」は、米ドルベース指数をもとに、当社が独自に円換算したものです。同指数に関する商標・著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利はJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。</p>
J-REITインデックス マザーファンド	<p>【東証REIT指数(配当込み)】 東証REIT指数とは、株式会社JPX総研が算出、公表する指数で、東京証券取引所に上場しているREIT(不動産投資信託証券)全銘柄を対象とした時価総額加重型の指数です。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。同指数の指数値及び同指数に係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び同指数に係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。</p>
グローバルREITインデックス マザーファンド	<p>【S&amp;P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円ベース)】 S&amp;P先進国REIT指数(以下「当インデックス」とい)とは、S&amp;P Dow Jones Indices LLC(以下「SPDJ」)が公表する指数で、世界主要国に上場するREIT(不動産投資信託証券)及び同様の制度に基づく銘柄の浮動株修正時価総額に基づいて算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。 当インデックスは、S&amp;P Globalの一部門であるSPDJの商品であり、これを利用するライセンスが当社に付与されています。Standard &amp; Poor's<sup>®</sup>及びS&amp;P<sup>®</sup>は、S&amp;P Globalの一部門であるStandard &amp; Poor's Financial Services LLC(以下「S&amp;P」)の登録商標で、Dow Jones<sup>®</sup>はDow Jones Trademark Holdings LLC(以下「Dow Jones」)の登録商標であり、これらの商標を利用するライセンスがSPDJに、特定目的での利用を許諾するサブライセンスが当社にそれぞれ付与されています。当ファンドは、SPDJ、Dow Jones、S&amp;P又はそれぞれの関連会社によって支援、保証、販売、又は販売促進されているものではなく、これら関係者のいずれも、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、当インデックスの誤り、欠落、又は中断に対し一切の責任も負いません。</p>
ゴールドマザーファンド (為替ヘッジあり)	<p>【LBMA金価格(円ヘッジベース)】 LBMA金価格とは、正式名称はLBMA Gold Price PMといい、ICEベンチマーク・アドミニストレーション・リミテッド(ICE Benchmark Administration Limited)によってロンドン時間の午後11時に公表される1トロイオンスあたりの金現物価格(米ドル建て)を指します。なお、LBMAは、ロンドン貴金属市場協会(London Bullion Market Association)の略称です。「円ヘッジベース」は、対円の為替ヘッジを考慮して当社が独自に算出した指数です。 ICEベンチマーク・アドミニストレーション・リミテッドは、LBMA金価格及びLBMA金価格が示す、あらゆる特定の日、特定の時点における数値により生じた結果について、明示的又は暗示的に、何ら保証するものではありません。ICEベンチマーク・アドミニストレーション・リミテッドは、当ファンドに関する商品性や特定目的への適合性について、明示的又は暗示的に、何ら保証するものではありません。</p>

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。





## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

### ファンドの特色

1. 世界の幅広い資産に分散投資し、ファミリーファンド方式で運用を行います。
2. 世界経済全体の発展を享受します。

### 投資リスク

#### 《基準価額の変動要因》

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。従って、**投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- **信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様に帰属します。**
- **投資信託は預貯金と異なります。**

#### 【株価変動リスク】

株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

#### 【為替変動リスク】

為替相場は、各国の経済状況、政治情勢等の様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。なお、「ゴールドマザーファンド(為替ヘッジあり)」における外貨建資産については、原則として為替予約を活用し、為替変動リスクの低減を図ることを基本としますが、完全にヘッジすることはできませんので、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のコストがかかりますが、さらに需給要因等によっては金利差相当分を上回るコストがかかる場合があることにご留意ください。

#### 【金利変動リスク】

債券の価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。また、発行者の財務状況の変化等及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。債券価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

#### 【商品(コモディティ)の価格変動リスク】

商品の価格は、需給関係や為替、金利変動等の様々な要因により大きく変動します。需給関係は、天候、作況、生産国(産出国)の政治、経済、社会情勢の変化等の影響を大きく受けます。商品価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

#### 【リート(不動産)の価格変動リスク】

リーートの価格は、不動産市況(不動産稼働率、賃貸料、不動産価格等)、金利変動、社会情勢の変化、関係法令・各種規制等の変更、災害等の要因により変動します。また、リート及びリーートの運用会社の業績、財務状況の変化等により価格が変動し、基準価額の変動要因となります。

#### 【信用リスク】

有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

#### 【カントリーリスク】

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化、外国為替規制、資本規制、税制の変更等の事態が生じた場合、又はそれが予想される場合には、方針に沿った運用が困難になり、基準価額の下落要因となる可能性があります。また、新興国への投資は先進国に比べ、上記のリスクが高まる可能性があります。

#### 【流動性リスク】

時価総額が小さい、取引量が少ない等流動性が低い市場、あるいは取引規制等の理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

#### 【有価証券の貸付等に係るリスク】

有価証券の貸付等においては、取引相手先の倒産などにより決済が不履行となるリスクがあります。貸付契約が不履行となった場合、担保金による有価証券の買戻しの際、時価変動の影響から損失を被り、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。





## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日



### 投資リスク

#### 《その他の留意点》

- ファンドは中長期的な成長を目指して、市場環境等の変化や見通しに応じた運用を行うため、委託会社の判断で投資対象とする資産の投資割合を変更します。この投資割合の変更が、ファンドの収益の増加に寄与する場合がありますが、収益の減少や損失の発生要因となる場合があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。  
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。  
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の換金申込が発生し短期間で換金代金を手当てする必要がある場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。  
これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止、取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

### お申込みメモ

- 購入単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入価額 … 購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。  
(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
- 換金単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 換金価額 … 換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額とします。
- 換金代金 … 原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
- 申込締切時間 … 原則として、販売会社の営業日の午後3時半までにお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入・換金 … 申込日当日が次のいずれかの場合は、購入・換金のお申込みを受け付けられないものとします。
- 申込受付不可日  
 ニューヨーク証券取引所の休業日  
 ロンドン証券取引所の休業日  
 ニューヨークの銀行休業日  
 ロンドンの銀行休業日
- 換金制限 … ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入・換金申込受付中止及び取消し … 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、投資対象国における非常事態による市場閉鎖、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。
- 信託期間 … 無期限(2017年11月30日設定)
- 繰上償還 … 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。  
 ・受益権の口数が30億口を下回るようになった場合  
 ・ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合  
 ・やむを得ない事情が発生した場合
- 決算日 … 毎年8月20日(休業日の場合は翌営業日)です。
- 収益分配 … 年1回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して分配金額を決定します。
- 課税関係 … 課税上は株式投資信託として取り扱われます。  
 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。  
 ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。  
 なお、配当控除あるいは益金不算入制度の適用はありません。

### ファンドの費用

《投資者が直接的に負担する費用》

#### ■ 購入時手数料

購入申込受付日の翌営業日の基準価額に**3.3%(税抜3.0%)を上限**として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

#### ■ 信託財産留保額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.1%**の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。

《投資者が信託財産で間接的に負担する費用》

#### ■ 運用管理費用(信託報酬)

運用管理費用(信託報酬)の総額は、以下の通りです。

純資産総額に対して**年率0.605%(税抜0.55%)**を乗じて得た額

(有価証券の貸付の指図を行った場合)

ファンドの品貸料及びマザーファンドの品貸料のうちファンドに属するとみなした額に**50%未満の率<sup>\*</sup>**を乗じて得た額

※2024年11月20日現在、合計で49.5%(税抜45%)以内とし、その配分は委託会社29.7%(税抜27%)、受託会社19.8%(税抜18%)です。(品貸料はファンドの収益として計上され、その一部を委託会社と受託会社が信託報酬として受け取るものです。)

#### ■ その他の費用・手数料

有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用、マザーファンドの解約に伴う信託財産留保額等をその都度、監査費用等を日々、ファンドが負担します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

また、上場投資信託証券は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託証券の費用は表示していません。

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「お申込みメモ」、「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## グローバル経済コア


追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年1月31日

### 委託会社・その他の関係法人の概要

- 委託会社 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社(ファンドの運用の指図を行う者)  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号  
 加入協会 : 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会  
 ホームページ : <https://www.smtam.jp/>  
 フリーダイヤル : 0120-668001 受付時間 9:00~17:00 [土日・祝日等は除く]
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管及び管理を行う者)



**SMTAM投信関連情報サービス**

お客様が指定されたファンドに関する情報(基準価額、レポート)や投資に関するコラム等をLINEでお知らせします。

※LINEご利用設定は、お客様のご判断をお願いします。  
 ※サービスのご利用にあたっては、あらかじめ「SMTAM投信関連情報サービス利用規約」をご確認ください。

### 販売会社

商号等	登録金融機関	登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)※	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)※	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

※ ネット専用のお取り扱いとなります。

- ・ お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、販売会社へお申し出ください。
- ・ 販売会社は今後変更となる場合があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。